

平成 30 年度モニタリング調査を実施する保護林について
(モニタリング間隔の検討等)

1 保護林設定管理要領の基準

第 5 モニタリング

2 モニタリングは、各保護林の状況を勘案し、以下のいずれかの間隔で実施するものとする。

(1) 5 年未満ごと

近い将来に当該地域における絶滅の危険性が極めて高い個体群を保護している保護林

(2) 5 年ごと

ア 遷移の途中段階にある保護林

イ 復元を行っている保護林

ウ 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ 保護林外部からの影響を受けている保護林

オ 鳥獣・病害虫被害及び移入種による影響が顕著にある保護林

カ 温暖化による影響が顕著にある保護林

キ その他、短期間で大きな変化が想定される保護林

(3) 10 年ごと

(1) 及び (2) に該当しない保護林

2 平成 28 年度 第 3 回委員会（平成 28 年 10 月 27 日）での意見（議事概要抜粋）

- 森林計画区をまたがっている保護林について、モニタリング時期をまとめることは可能なのか検討すべき。
- 連続的に調査していて特に変化がないなど、安定的な状態であれば、モニタリング調査を 1 回飛ばすとか、そうした方法も考えてみてはどうか。
- 計画期間と食い違うモニタリングは意味がなく、計画期間に合わせるべきだと考える。
- モニタリング期間を 10 年に延ばした場合、前回の調査からかなり違っているのが見えてくるので、違いが見えやすい反面、違ってきした場合の対策・対応が取りにくいのではないかと。5 年ごとのまま、モニタリング箇所を減らすことを考える方が経費の節減になるのではないかと。
- 感覚的には 5 年と言わず、もっと長く間隔をとってもいいのではないかと考える。
- 植物側から見ると 5 年で変化することはほとんどない。動物、特にシカなどは 5 年でかなり変わってくるので調査間隔をあけることは難しい。また、保存利用地区の変化は大きいかもしれない。

平成 30 年度 保護林モニタリング調査実施箇所の検討

森林計画区	署等名	保護林区分	保護林名称	要領による区分							H30 実施	間隔 (年)	前回調査結果及び委員会意見	
				1	2									3
					ア	イ	ウ	エ	オ	カ				
三八上北	三八上北	生物群集保護林	八甲田山							●	○	5	(シカ侵入の懸念)	
大槌・気仙川	三陸中部	生物群集保護林	五葉山							●	○	5	シカ被害はあるものの平衡状態	
雄物川	秋田	森林生態系保護地域	葛根田川・玉川源流部							●	○	5	岩手県側にシカ目撃情報あり	
		生物群集保護林	奥羽山脈北西部			●						○	5	ブナ稚幼樹が少ない。周囲には散見される
			八幡平								●	○	5	プロットを再設定した
			和賀岳								●		10	－
			太平山周辺								●		10	－
			番鳥森・大仏岳								●		10	－
			葡萄森								●		10	－
		希少個体群保護林	軽井沢アカシデ遺伝資源								●	○	5	プロットを再設定した
			仁別スギ遺伝資源								●		10	－
			田沢湖コナラ遺伝資源			●						○	5	稚幼樹が少ない
			小又沢スギ								●	○	5	プロット内に小崩壊発生
			ユキツバキ								●		10	－
			奥山沢スギ								●	○	5	新規倒木によるギャップが多い
			真昼岳オサバグサ								●	○	5	プロットを再設定した
湯淵沢ヒメカイウ									●	○	5	開花時期での調査を検討		
仙岩峠スギ								●		10	－			
夏瀬ヒバ								●		10	－			
真昼岳モリアオガエル						●			○	5	ナラ枯れの可能性			

注) 前回調査結果及び委員会意見欄の () は、前回調査では特段の変化等がなかった保護林のうち、想定される懸念を記載。

平成 30 年度 保護林モニタリング調査実施箇所の検討

森林計画区	署等名	保護林区分	保護林名称	要領による区分							H29 実施	間隔 (年)	前回調査結果及び委員会意見	
				1	2									3
					ア	イ	ウ	エ	オ	カ				
雄物川	湯沢	森林生態系保護地域	栗駒山・栃ヶ森山周辺							●	○	5	(シカ侵入の懸念)	
		希少個体群保護林	雄勝峠スギ								●		10	—
			田代沼水生					●				○	5	ウエツキブナハムシ食害
最上村山	山形	森林生態系保護地域	朝日山地							●	○	5	(シカ侵入の懸念)	
		生物群集保護林	蔵王					●			○	5	(H25 秋以降、隣接アオモリトドマツ林分にトウヒツヅリヒメハマキ被害)	
			船形山(御所山)					●			○	5	ナラ枯れが見られた	
	希少個体群保護林	遊仙峡クリ遺伝資源			●					○	5	稚幼樹が少ない		
	最上	生物群集保護林	月山							●	○	5	新規倒木によるギャップが多い	
		希少個体群保護林	山の内スギ							●	○	5	新規倒木によるギャップが多い	
雄勝峠スギ										●		10	—	

注) 前回調査結果及び委員会意見欄の () は、前回調査では特段の変化等がなかった保護林のうち、想定される懸念を記載。

平成 30 年度 保護林モニタリング調査とあわせて発注を検討する調査

森林計画区	署等名	直近のモニタリング調査年	保護林区分等	名称	調査の概要等
北上川上流	盛岡	H26	森林生態系保護地域	早池峰山周辺	早池峰山周辺生態系保護地域におけるニホンジカの植生被害に対して、優先的に防護すべき箇所及び対応策の検討を行うための調査。 (高山帯でのセンサーカメラ撮影、希少植生の位置の把握等)
久慈・閉伊川	三陸北部	H27			
北上川中流	遠野	H28			